

広報

ただみ

6

2018 月号

No. 577

平成30年6月10日



今月の表紙

今月の表紙は、5月12日に行われた朝日小学校の運動会で、全力で綱を引く白組の皆さんです。

今年の運動会のスローガン「羽ばたこう、君のパワーは無限大!～太陽よりまぶしく輝けあさひっこ～」のとおり、児童たちは自分の持っている最大限の力を披露し、そのがんばる姿は輝いていました。

(関連記事:P8～9)

<特集>

「町政懇談会」開催…………… 2～5

南会津郡「消防団春季連合検閲式」…… 6～7

町内各小学校で大運動会…………… 8～9

《News&flash》…………… 10～11

《町の話》…………… 12～13



地域住民と町づくりについて意見交換

「町政懇談会」を開催

5月14～18日にかけて、町内3地区の朝日振興センター（14日開催）、只見振興センター（15日開催）、小林集会所（18日開催）で「町政懇談会」を開催しました。この町政懇談会は、町長をはじめ町職員が地域住民の皆さまからご意見をいただき、町政に反映していくことを目的としており、当日は町から本年度の予算について説明し、続いて参加者との意見交換を行いました。本号では、3会場での意見交換の一部をお知らせいたします。

贈 南会工業株式会社

問 「只見駅前中心市街地活性化計画」と「道の駅構想」の現在の状況について教えてください。

答 商工会を中心に只見駅前「中心市街地活性化基本計画」のベースとなる計画が策定され、その実現に向けて検討してまいりましたが、役場新庁舎建設の

中止、JR只見線全線再開など、取り巻く環境の変化から、これまで進めてきた計画の全体的な見直しが必要となりました。今後については、町としての方向性が示せるよう内部で協議し、議会の意見を踏まえながら進めていきたいと考えます。

「道の駅構想」については、昨年度に観光商工課で近隣の道の駅の調査を行っており、今後は議会との協議や県の指導なども踏まえながら考え方をまとめ、そして国道289号八十里越の開通を一つの目安として、道の駅を整備したいと考えております。



▲小林集会所で行われた町政懇談会(参加者22名)

問 防災行政無線のデジタル化は、どのような改修工事を行うのか教えていただきたい。

答 この事業は、国の電波法が変わり、防災行政無線をアナログからデジタルに移行する工事のことです。テレビのアナログからデジタルに移行したようなイメージ。平成34年にはアナログによる防災行政無線が使用できなくなるため、本年度は要害山などに発信機の設置などを行い、各家庭に設置する戸別受信機は来年度の実施を考えています。戸別受信機には、聞き逃した放送を再度聞き直しができる機能を設ける予定で進めております。

問 県営中山間総合整備事業の中で水路改良の実施について要望していたが、事業採択などの見込みを教えてください。

答 この事業は、昨年度に100ヶ所、約20億の事業規模で県に要望しています。県としては、震災復興事業を優先的に、そして事業の趣旨に合致したものを事業採択しており、一般の県営事業は厳しい状況であります。しかしながら、他に対応可能な事業はないため、今後も要望していく考えです。

問 議会3月会議の中で、橋本副町長が述べていた「プロジェクト」はスタートしたのか教えていただきたい。

答 この事業は「プロジェクトチーム」と「人材育成」の2本柱で4月からスタートしております。「プロジェクトチーム」では、人口減少対策の取り組みに向けて、JR只見線再開通、国道289号八十里越の開通、空き家対策など、町を取り巻くあらゆる課題を対象に内部で議論し、そして事業化に向けて検討しているところであります。



▲町長へ質問する目黒俊行さん(荒井原)



▲説明に耳を傾ける参加者の皆さん

問 国道沿いにある危険空き家について対策してほしい。

答 行政として、国道沿いだけに特定しての対策は難しい。国の補助が受けられるよう計画づくりを進めておりますが、財産処理という非常に難しい課題があります。研究をしながら課題解決に向けた計画づくりを進めていきたいと考えます。

問 防災行政無線の放送は、高齢者には1回ではわかりにくいので、2回放送してほしい。

答 1回の放送としている理由として、夜勤など夜中に仕事を行い、朝に就寝する方などがおり、放送に関する様々な意見が寄せられております。そのような中で、緊急時以外は1回の放送とさせていただいている経過があります。今後、防災行政無線のデジタル化が進めば聞き直しが可能となるので、ご理解とご協力をお願いしたいと考えます。

問 只見町では、JR只見線に関するふるさと納税を行っていますか。

答 只見線の復旧費や利活

用に向けたふるさと納税を実施しており、地域創生課で受け付けております。

問 高齢者世帯の方が亡くなり、集落に荒れた田畑などの土地だけが残るケースが増えているが、遺族が町に土地を寄贈したい場合、町はこの土地を受け取ることは可能ですか。

答 町は農地を取得できないため、受けることはできません。また、町の土地でも全てをきれいに管理することは非常に難しい状況にあります。



▲朝日振興センターで行われた町政懇談会(参加者13名)



▲只見振興センターで行われた町政懇談会(参加者19名)

問 只見町の地域おこし協力隊は何名で、どこに配属されているか教えていただきたい。

答 地域おこし協力隊は現在6名在籍しております。内、3名は観光分野で、観光商工課、青少年旅行村いこいの森、森林の分校ふざわにそれぞれ従事しています。

また、教育分野でも3名おり、公営塾の講師が2名、只見高校振興対策として山村教育留学生の募集活動と寮の担当が1名となっております。

問 3地区で似たようなイベントが行われているので、一緒に実施することはできないか。

答 各振興センター長などと協議し、検討したいと考えます。

問 一軒家対策として長年除雪を要望しているが、できない理由ではなく、できるような

な方向で検討してほしい。

答 一軒家対策については多くの要望があり、対象家屋までに行く用地の問題は集落に解決をお願いしております。

一軒家対策を行うことにより除雪本数が増えるため、重機台数やオペレーターの人員など他の道路除雪に影響がでてくる可能性も考慮する必要があります。

できるだけ対応できるように現地を調査し、区長とも協議しながら進めていきたいと考えますので、ご協力をお願いいたします。

問 危険庁舎からの暫定移転は重要なことでありますが、役場新庁舎の再建をお願いしたい。

答 役場庁舎が駅前庁舎と町下庁舎に分散したこと、役場機能の低下、来庁者への不都合などによる町民サービスの低下につながるので、コンパクトで身の丈にあった新庁舎の

再建を実現していただきたい。

答 役場庁舎暫定移転の完了は、あと1年程度かかる予定で、今後はJR只見線の再開通や国道289号の取り組み、防災行政無線デジタル化や民具収蔵庫など大規模な事業が計画されており、新庁舎の再建との同時進行が難しいと考えます。

よって、健全な財政計画と順序立てを行い、町民や議会の皆さまとも協議しながら進めていきたいと考えます。

問 道路の白線などが消えているところがあるため、安全のために白線を引いてほしい。

答 町道については町が対応しておりますが、国県道は県が道路管理者になります。国県道については、通学路を中心に道路の状況を調査し、道路管理者へ報告しております。

消防団春季連合検閲式



▲只見町消防団の通常点検を行う検閲官の星學下郷町長

連合検閲で

地域防災の意識高める

5月13日、自治体消防70周年記念・南会津郡3町1村消防団春季連合検閲式が南会津町田島地区中心部の国道121号と御蔵入交流館で行われました。この連合検閲式は5年ごとに実施されているもので、郡内の各消防団や婦人消防隊など約800名が参加しました。

検閲式では、星學下郷町長が検閲宣言したあと、閲団・通常点検、分列行進が行われ、団員の士気と規律を高めました。続いて、御蔵入交流館では各種表彰などが行われ、受賞者を代表し、只見町消防団の目黒邦友団長が「今後も予防消防に努め、地域を守っていきます」と謝辞を述べました。

町消防団の受賞者は次のとおりです。(敬称略)

◆日本消防協会表彰▼功績賞Ⅱ目黒邦友(只見)◆県消防協会南会津支部長表彰▼功績賞Ⅱ吉津健(黒谷)、馬場



▲規律ある動作を披露した只見町消防団



▲閲団で検閲官に敬礼する只見町女性消防班



▲下郷町消防団の通常点検を行う副検閲官の菅家町長



▲分列行進を行う只見町消防団



▲集結した約800名の団員などの閲団を行う検閲官の方々

吉津善也さん(長浜)に感謝状

5月13日、町の消防施設整備に特段の協力をいただいた長浜地区の吉津善也さんに感謝状が贈られました。吉津さんは、長浜地区内の防火水槽用の土地を提供され、菅家町長から「自治体消防へのご協力ありがとうございます」と感謝状が手渡されました。



▲町長から感謝状を受ける吉津善也さん(右)



▲日本消防協会表彰・功績賞を受ける目黒邦友団長

良元(梁取)、藤田洋平(只見)、飯塚和行(坂田)▼優良賞Ⅱ鈴木健(黒谷)、五十嵐譲(只見)、飯塚翼(只見)、五十嵐剛(小林)、梁取茂弘(小林)、角田誠(小林)、山内政邦(梁取)、堀金瞬(福井)、鈴木淳(只見)、鈴木靖和(只見)、本名修(黒谷)、舟木晋太郎(小林)、大竹信二(只見)、山内悟(梁取)▼勤続章Ⅱ小林吉男(布沢)、梁取東(布沢)、三瓶鍊(大倉)、三瓶節(深沢)



最後までがんばった「紅組・白組」の熱戦!

大運動会!!

小学校の一大イベント「大運動会」が各小学校で盛大に開催され、保護者や地域住民など多くの方が訪れました。児童たちはこれまで練習を重ねてきた成果を披露し、紅組・白組の熱戦が繰り広げられました。最後まで諦めない児童の姿に、会場からは大きな声援が贈られていました。

本号では、児童の活躍を写真で紹介します。





⑧



⑦



⑨



⑪



⑩

町内小学校

◆明和小学校(5月12日開催)

- ①応援合戦・白組 ②応援合戦・紅組 ③高学年180m走
- ④全校綱引き ⑤高学年による組体操 ⑥手紙を届ける児童

◆朝日小学校(5月12日開催)

- ⑦全校生と保護者の大玉転がし ⑧盛り上がった騎馬戦
- ⑨鼓笛パレード ⑩デカバン親子リレー ⑪バトンリレー

◆只見小学校(5月20日開催)

- ⑫高学年の200m走 ⑬紅組の応援合戦
- ⑭白組の応援合戦 ⑮ラッキーカラーを確認する児童
- ⑯二人三脚大玉転がし



⑫



⑬



⑭

只見町消防団選手の結団式

5月16日、平成30年度福島県消防操法競技南会津地方大会に出場する選手の結団式が朝日振興センターで行われました。結団式では、目黒邦友消防団長と菅家町長が「県大会を目指し頑張ってください」とそれぞれあいさつし、続いての選手紹介では、小型ポンプ操法の指揮者・佐藤義樹さんが「町の代表として頑張りたい」と話し、自動車ポンプ操法の指揮者・佐藤雅幸さんが「団長を県大会に連れていきたい」と抱負を語りました。

大会は7月8日、会津高原だいくらスキー場駐車場(南会津町)で開催されます。



▲小型ポンプ操法の部に出場する第6分団・第2班(大倉)の選手の皆さん



▲自動車ポンプ操法の部に出場する第5分団・機動班(小林)の選手の皆さん

― 出場競技・選手名紹介 ―
① 小型ポンプ操法の部(大倉)

指揮者	佐藤義樹
1番員	佐藤佑介
2番員	永井晃嗣
3番員	三瓶和人
補充員	三瓶錬
補欠	山内隆行

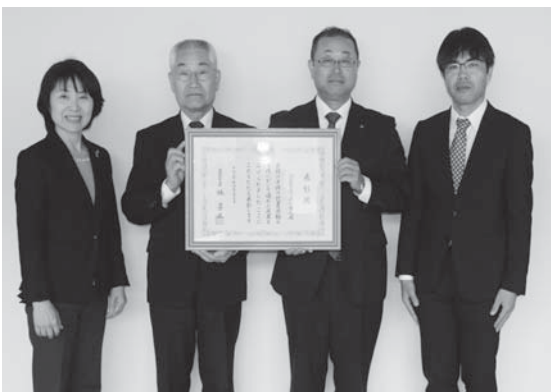
② 自動車ポンプ操法の部(小林)

指揮者	佐藤雅幸
1番員	川原史紹
2番員	堀金賢二
3番員	角田裕一
4番員	堀金俊也
補充員	児島達志
補欠	角田誠

只見小が読書活動優秀実践校

5月8日、文部科学省などが主催する文部科学大臣表彰において、「子どもの読書活動優秀実践校」として表彰された只見小学校の吉野徹校長と國分洋克教頭が役場を訪れ、菅家町長に受賞報告を行いました。これは、只見小が実践している、おすすめ本紹介活動や家族全員で読書する「家読」の日の設定、読書ボランティアや学校司書などと連携した読書環境向上活動など、読書に親しむ機会を増やし、読書の質を高めたことが評価され、今回受賞となったものです。

報告を受けた菅家町長は、只見小の功績を称えました。



▲菅家町長(中左)と渡部教育長(左)に報告した吉野校長(中右)と國分教頭(右)

只見小に「欣游暢神」の書寄贈

墨雅書道会の相談役顧問や毎日書道展の審査会員をされる只見町出身の書家・新國雅堂さん(本名・新國恭司さん)郡山在住)は5月10日、只見小学校に自身がしたためた書「欣游暢神(ゆうをよろこびしんをのぶ)」を寄贈されました。これは、新國さんの母校であり、曾祖父・新國啓次郎さんが只見小の初代校長であったことから、創立記念日の同日に寄贈したもので、新國さんの父・博之さんも同席しました。寄贈した書は、「遊び楽しんで精神をのびのびさせる」意を表しており、児童が利用する多目的ホールに掲額されました。



▲書を手にする新國さん(中左)と吉野校長(中右)、同席した博之さん(左)と増田教育次長(右)

納税秩序の維持発展を称える

町納税貯蓄組合連合会が表彰

5月15日、福島県が主催する平成30年度各種功労者知事表彰において、只見町納税貯蓄組合連合会が「優良納税団体」として表彰されました。同連合会は、昭和45年の設立以来、47年余りにわたり、会長を中心に組合の育成強化に尽力し、納税意識高揚に努めるとともに期限内の高い納税率を誇り、納税秩序の維持発展に寄与されたことが評価されたもので、表彰式では栗木豊会長が内堀福島県知事から表彰状を受け取りました。

同日、栗木会長は役場で受賞報告を行い、菅家町長がその名誉を称えました。



▲内堀福島県知事(右)から賞状を受ける栗木会長(左)

連休前の再開通を祝う

国道252号再開通イベント

冬期通行止めとなっていた国道252号「六十里越雪わり街道」が4月27日に再開通し、翌日の4月28日に新潟県魚沼市の道の駅いりひろせで再開通式典が行われ、只見町や魚沼市などの関係者約40名が出席しました。

式典では、国道252号六十里越雪わり街道を愛する会の目黒長二郎会長や菅家町長などが挨拶し、連休前の再開を喜びました。続いて、関係者によるテープカットが行われ、再開通を祝いました。また、会場では特製の六十里まんじゅうやきのこ汁が振舞われ、只見町や魚沼市の特産品が販売されました。



▲テープカットで再開通を祝う関係者の皆さん

JR只見線の利用促進のために

町観光まちづくり協会が寄付

5月18日、(社)只見町観光まちづくり協会の目黒長二郎会長が役場を訪れ、全線復旧が決まったJR只見線の応援として集めた募金67,343円を町に寄付されました。

これは、同協会が販売する只見線オリジナルグッズの売上金の一部と、4月22日に会津鉄道で運行された臨時列車で寄付を募ったもので、目黒会長から菅家町長に寄付金を手渡されました。寄付を受けた菅家町長は感謝の意を述べました。

寄付金は、町のふるさと納税として収められ、只見線の利用促進に活用されます。



▲菅家町長(右)へ寄付金を手渡す目黒会長(左)

新緑の只見町を満喫

JR只見線「只見新緑満喫号」

5月26〜27日の2日間、JR只見線の臨時列車「快速・只見新緑満喫号」が新潟県新潟駅から只見駅間で運行されました。臨時列車は、新緑を迎えた大自然の中を走り、車内では「子ども車掌体験」として子どもたちが車内アナウンスなどを行いました。

只見駅前では、どぶろくや米焼酎ねっかななどの振る舞い、地元飲食店の協力で作られた只見町の駅弁「くっつけ只見」などを販売しました。また、ダム見学や遊覧船などが楽しめるバスツアーも企画され、2日間で訪れた計131名の乗客は只見の地を満喫していました。



▲新潟駅から只見駅間で運行された「快速・只見新緑満喫号」

手植えしたお米を米焼酎ねっかの原材料に

KARIYASU'18「100人手植え」開催！！

5月12日、地元農家が主催する田植え体験イベントKARIYASU'18「100人手植え」が季の郷湯ら里前の水田で開催され、首都圏などから約100名が参加しました。手植え体験は、参加者が裸足で水田に入り、水田内に記された升目に合わせて苗を植え付け、さらに別の水田では田植機の試乗体験が行われました。また、地元農家と交流する東京・渋谷からバケツドラマーのMASAさんが会場を訪れ、バケツドラムで軽快なリズムを披露しました。秋には「手刈りイベント」が企画されており、そこで収穫したお米を原材料に米焼酎ねっかをつくり参加者に贈呈される予定です。



▲泥だらけになりながら手植え体験を楽しんだ参加者の皆さん

只見町ブナセンター 春の自然観察会

第1弾「春植物を愛でる！」

5月4日、春植物を観察する自然観察会が黒谷川林道で開催され、町内外から25名が参加しました。春植物とは、雪が消えると真っ先に花を咲かせ、夏には葉や茎を枯らして地上から姿を消す植物のことで、雪解けが早かった今年は、一番に花を咲かせるフクジュソウの花が終わり、代わりに満開のカタクリやキクザキイチゲ、キバナイカリソウなどの花を観察することが出来ました。参加者は、春植物の生態について理解を深めるとともに春の花々を楽しみました。



▲カタクリを観察する参加者の皆さん



▲大きなブナが倒れてできた空間(ギャップ)を見上げる参加者の皆さん

第2弾「残雪のブナ林を歩く」

5月5日、残雪のブナ林とそこに生育する植物について学ぶ自然観察会が布沢の癒しの森で開催されました。今年はブナの開花年だったため、地面に落ちたブナの花を観察しました。また、ブナの大木が倒れた場所では、樹木が倒れたことでそれまで光が届かなかった環境に光が届くようになり、明るい環境を好む植物やこれまで暗い環境で生育していた植物が成長している様子を観察しました。参加者は、新緑のブナ林を楽しみながら、ブナ林の特徴などを学びました。

県内外の学校が只見町へ！ 教育旅行の受け入れ始まる

県内外から農村生活体験の教育旅行で訪れる学校の受け入れが5月10日、仙台市立八木山中学校2年生141名を皮切りに町内で始まりました。同校の受け入れは今回で3回目となり、季の郷湯ら里で開村式を行い、町内の農家で民泊し農作業を体験しました。

今年度、只見町では5～9月まで県内外から8校約850名(延約950泊)を、南会津町や金山町と連携して受け入れる予定です。



▲開村式で農家さんにあいさつする八木山中学校生の皆さん

只見四名山の山開き・第1弾 「要害山」山開き開催

5月13日、JR只見駅の裏に位置する「要害山(705m)」の山開きが行われ、町内外から約150名が参加しました。

開山式では安全祈願に続き、只見町観光まちづくり協会の渡部理一事務局長が歓迎の挨拶を行いました。その後、参加者は記念バッチを受け取り、新緑の要害山の頂を目指しました。下山後は振る舞いの甘酒に舌鼓を打ち、「只見四名山」の初陣となる山開きを楽しみました。



▲只見地区の町並みを背に要害山に登る参加者の皆さん

景観・環境美化の推進！ 朝日地区「ちょボラごみ拾い」

5月20日、朝日地区地域づくり委員会が主催する「ちょボラごみ拾い」が行われ、地域住民約50名が参加しました。このごみ拾いは朝日地区の国道や県道など4コースに分かれて行われており、今回集めたごみの量はごみ袋25袋分となりました。同イベントは秋にも開催する予定で、その他、地域の景観・環境美化を推進するために朝日地区の各集落にごみ捨て禁止の看板を設置しています。



▲オレンジ色のベストを身にまといごみを回収した参加者の皆さん

多くの催しで賑わう！ 亀岡トレーラーハウス1周年記念

5月27日、亀岡多目的活性化広場内にオープンした亀岡トレーラーハウスが1周年を迎え、同会場で「1周年記念イベント」が開催されました。このイベントはトレーラーハウスのテナントの方々が企画したもので、会場内ではシューズ「On」のお試し体験や施術体験、手作り品などのバザーなどが行われました。また、お菓子釣りゲームや飲食販売などもあり、多くの親子連れで賑わいました。



▲多くの催しで1周年を祝ったイベント会場

広報ただみ診療所

朝日診療所
所長 若山 隆



「新しく始まる胃癌検診制度」

今回は、今年度から只見町で新しく始まる胃癌検診制度についてお話します。

これまで只見町で行う胃癌検診は、検診車で行われるバリウム検査のみでした。バリウム検査では、検診を受けられる日が決まっていたり、バリウムを誤嚥する危険があったり、バリウム検査で引っ掛かると結局は胃カメラ検査を受ける必要があったりという欠点もありました。

今年度以降は、胃カメラでの胃癌検診をうけることもできるようになります。検診対象者は50歳以上で今年偶数歳になる方（2019年3月31日時点で偶数歳）の方です。2年に1回受けられるわけですね。しかしながら対象者でも胃癌検診を受けられない場合もあります。胃の病気で治療中の方（胃薬を処方されている方）、胃の手術を受けたことがある方、重い心臓病がある方（ペースメーカーの方、心筋梗塞をされたことがある方）、血液サラサラ薬を飲んだことがある方は健診で胃カメラを受けられません

（保険診療での胃カメラを医療機関に個別に相談ください）。

胃癌検診を胃カメラで受たい方は、町から配布される案内と受診券を用意して電話で申し込んでください。胃カメラは南会津郡内の複数の医療機関で受けることができます。朝日診療所でも火曜日もしくは水曜日に胃カメラを行っております。平日13時～15時の間で電話での予約を受け付けます（電話番号：0241-84-2200）。実施期間は2018年6月1日～9月29日の4か月間となっております。6月は予約が混雑する恐れがありますので、少しお待ちいただくこともあります。料金は基本3,000円（追加検査あれば別）となっております。

胃癌検診は大腸癌検診と並んで、検診で死亡者を減らすことができる大事なものです。早期発見・早期治療がなにより重要ですので、この機会にぜひ受けましょう。

地域おこし協力隊として 只見町教育振興協力隊

vol.43

松本 貴芳



「傷つけ合いと、許し合いの境界線」

ある日、東京のコンビニでゼリーを買った。ホテルに戻り早速食べようとする、店員さんがスプーンを付け忘れていた。だから私は「うわ、素手で食べるのかよ」と思いイラッとした。

またある日、町内のお店で半額商品を買って帰ったが、家でレシートを見てみたら、半額計算されていなかった。しかし、私は「でもまあ、いっか」と思った。

些細なミスに対する感じ方。この違いは何だろうと考えた。それは、店員さんとの関係に対しての「意識の違い」だと思った。

東京の店員さんは、名前も知らない初対面の人。只見の店員さんは、名前は知らないけど何度か見たことのある人。前者に対しては、赤の他人という別ものの意識。後者に対しては、只見町民という共同体意識があった。名古屋で暮らしていた頃、「名古屋市民」という共同体意識なんて全く無かった。只見町に暮らしてみ、初めて「只見町民」という共同体意識を知った。

「共同体意識があるか、否か？」傷つけ合いと、許し合いの境界線は、そこにあるのかもしれないと、只見町に来て感じました。



水眼鏡をかけて行う青干し▶
(イラストは筆者)

町史

とっておきの話

287

只見 ぜんめえ物語 ②

—青干しぜんまい—

本格的な青干しぜんまいとは、太陽の日は一切当てず、ぜんまい小屋に設けられた炙りホド（火処）の上で、木を燃やしながらかその火力で乾燥させたぜんまいをいいます。一方、雨天が続いたときなど、やむなく一時的に炙りホドで乾燥させた場合は、天候が回復すると一齐に天日で干しました。このように、一日だけでも陽に当ててしまうとぜんまいは赤みを帯び、きれいな青干しぜんまいにはなりません。

青干しをするとき炙りホドにくべる薪は三尺ほどの長さに切ったものやヨキ（斧）で直径五、六寸ほどに割ったものを使っていました。また、薪づくりはぜんまい山の二、三か月前に雪の上で行います。いわば半生の薪です。よく乾燥した薪は燃えは良いのですが火力が弱くて作業が

はかどらないといえます。

ゆで上がったぜんまいは箆にあげて水気を切り、炙りホドに敷かれた竹簀子たけすのこの上にあけられます。あけるとすぐさま、熱々のぜんまいを素手で広げては集め、そしてひっくり返すという作業を何回も繰り返します。ぜんまいの中に指を入れたときの感じは、まるで、もち米を蒸籠で蒸かしているとき、その中に入れたのと同じだといえます。とにかく熱い。慣れないうちは指が火ぶくれになってしまいま

に広げて息を抜きます。これで第一回目が終わります。

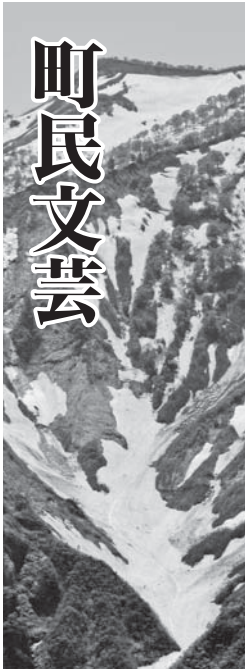
翌日、翌々日も同じ作業をそれぞれ一時間ずつ繰り返します。近くに水を張った桶を置いて火の回りが強くなりそうなきには、すかさず炙りホドに水を打ちます。立ちのぼる煙と水蒸気で目を開いているのがつくらくなりますが、火力が高過ぎたりひっくり返す作業が遅れたりすると、「ぜんまいがはじける」といいます。ぜんまいの皮が破れて中のエキスが傷口からしみ出してしまうのです。こうなると商品価値がなくなってしまうので火加減にはかなり気を使います。

ぜんまい採集が終わり山を下りるというころ、作りためた青干しの仕上げが行われます。ホドの火を弱火にしてそれらをもう一度干し上げます。すると、それまでしななと柔らかかったぜんまいが天干しに近くなります。そして、ぜんまいの表面に細かな皺模様が現れてきます。これを「縮緬皺」と呼んでいます。この縮緬皺はよいぜんまいの証あかしと言われています。

鈴木 克彦
すずき かつひこ

蒲生の馬場正毅さんは泊まり山でぜんまい採りを行った経験もありましたが、子どもころ、親と一緒に泊まり山に行くと、青干しぜんまい作りをしている光景は日常的によく目にしていました。なかでも印象深い記憶として、ぜんまい小屋の中に設けられた炙りホドでおばちゃんの水眼鏡（みずめがね）をかけ、片足を竹簀子の端に上げてぜんまい干しをしている姿がありました。妻の八重子さん（昭和一〇年生まれ）も一七歳のころ、煙がもうもうと立ち上る山小屋で足袋をはいた片方の足を竹簀子の端に置き、顔をそむけたまま踏ん張りながらぜんまいを干している親戚のおばちゃんの姿を今もはっきりと覚えているそうです。

本格的な青干しぜんまいは、鮮やかな緑色であることから京都方面においては高値で取引されたと聞きます。また、煙をたくさん浴びているのでぜんまいがカビにくいともいいます。しかし、製法がとてもしばいことから、本格的な青干しを行う人は少なかったようです。



町民文芸

只見短歌会

四月詠草

大塚栄一

指導

春来れば吾百姓に目ざめしか友来る毎に種など配りて

馬場 八智

爽やかな挨拶かはし高校生ら自転車漕ぐ春風のなか

関谷登美子

何するとなく過ごしたる雨の日のひと日を思ひ後ろめたしも

小倉キミ子

雪消えの庭木の手入れに暇なく^{いとま}疲れのしるく足腰痛む

渡部ゆき子

花の種蒔きし立て札に幼子の覚へたてなる字が笑ひをり

目黒 富子

ふきのとう施設の人らと摘み行くにわれより脚力つよきに驚く

飯島小百合

老い母のショートステイの支度するに飼ひ猫不安げにわが顔見上ぐ

新国由紀子

残雪の隙間にのぞく雑草か緑黄色の日毎色増す

渡部ヨリ子

純白の八重の石南花朝日差す出窓に孫はさりげなく置く

新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会

五月例会

目黒十一

指導

野に出よと園児に告げよいぬふぐり
山あいの村に人なし藤の花

信

子も孫も浴びた鹽に種浸す
夏の宿納豆巻の好きな母

一穂

ポケットは小銭重たく春コート
泥んこの野球少年春の虹

都

笑顔連れ田植え休みの村旅行
五月晴れ北へ流るる雲二つ

修一

風立ちて木筆薫るや空の青
春光や母子手帳うけ颯爽と

味代子

考妣の慈愛の百寿花万朶
花萼座や頭テンテンバイバイも

吉児

遠き日の開墾跡や谷うつぎ
麦わら帽案山子にゆずり買い替えぬ

弘子

酸葉食み少国民の腹瘦せし
吾も醒め蛙も覚めて畑を打つ

幸生

薄日射す斑雪踏みしむ雑木林
ひとところ尾根を動かぬ夕霞

礼

病院の自動ドア出る昭和の日
病窓の飯豊きらりと夏きざす

恒夫

今月のお知らせ

電話番号

総務課	
総務係 財政係	☎82-5210
地域創生課	
創生企画係 広報広聴係	
ユネスコエコパーク推進係	☎82-5220
町民生活課	
税務係	☎82-5110
町民係	☎82-5100
保健福祉課	
保健係	☎84-7005
福祉係	☎84-7010
農林建設課	
農林係	☎82-5230
建設係	☎82-5270
観光商工課	
観光係 商工係	☎82-5240
会計室	☎82-5120
議会事務局	☎82-5300
農業委員会	☎82-5230
教育委員会	☎82-5320
学校給食センター	☎84-7180
只見保育所	☎82-2219
朝日保育所	☎84-2038
明和保育所	☎86-2249
朝日診療所	☎84-2221
(歯科)	☎84-2612
こぶし苑	☎84-2101
只見振興センター	☎82-2141
朝日振興センター	☎84-2111
明和振興センター	☎86-2111

試験

只見町職員
(高校卒程度・一般事務職)
採用候補者試験を行います

平成31年度只見町職員(高校卒程度・一般事務職)採用候補者試験を次のとおり行います。

●試験職種及び採用予定人員
一般事務職 若干名

●受験資格(学歴不問)
平成6年4月2日から

平成13年4月1日までに
生まれた者

●試験の方法
▽第1次試験

教養試験、一般性格診断検査、職場適応性検査、事務適正検査

▽第2次試験(二次試験合格者)

小論文、面接による試験

●第1次試験日時・会場
▽日時

平成30年9月16日(日)
午前9時受付〜午後2時30分
▽会場
福島県立田島高等学校
(南会津町田島字田部原260)

●発表

役場掲示板に合格者番号を掲示するほか、本人に通知します。

●採用

合格者は採用候補者名簿に記載され成績順に町長が採用者を決定します。(この合格の有効期間は1年間です)。

●受験申込受付期間

平成30年6月18日(月)〜
平成30年8月10日(金)

※郵送による場合は8月8日(水)までの消印のあるものに限る。

●受験手続

▽申込用紙の請求

申込用紙は役場総務課および朝日・明和振興センターで交付し

ます。

※郵送による場合は120円切手を貼った自分宛の返信用封筒角二号を添付してください。

▽申込方法

申込用紙は役場総務課に持参または郵送により提出してください。

※いずれの場合も82円切手を貼った自分宛の返信用封筒長三号を添付してください。

●問合せ先

只見町役場総務課
☎0241(82)5210

お知らせ

福島県労働委員会事務局より「労働困りごと相談会」開催のお知らせ

賃金未払い、解雇、退職、パワハラなどの労使間のトラブルに關

する困りごとや疑問についての相談をお受けします。相談は無料で秘密は厳守します。

現地相談会では、労働問題に精通している労働委員会委員が対応しますので、お気軽にご相談ください。

●開催日時

7月8日(日)

午前10時〜午後4時

●現地相談会の会場

・郡山市労働福祉会館
・県会津若松合同庁舎

※電話予約による時間指定も可能です。

●電話相談(県内全域対象)

☎024(521)7594

午前10時〜午後7時

●問合せ先

福島県労働委員会事務局

(福島市中町8-2)
☎024(521)7594

税 今月の納期

6月25日までに納めましょう

- 町県民税(1期)
- 水道使用料(1期)
- 農集排使用料(6月分)

福島労働局より労働保険の年度更新などのお知らせ

事業主の皆さまへお知らせです。平成30年度の労働保険の年度更新の申告期限は7月10日(火)です。

期限までに、最寄りの銀行、郵便局、労働基準監督署、福島労働局において手続きされますようお願いいたします。

●申告期限

平成30年7月10日(火)

●申告方法

▽労働保険の年度更新

電子申請をご利用ください

▽労働保険料などの納付

口座振替をご利用ください

●問合せ先

福島労働局総務部

労働保険徴収室

☎024(536)4607

新緑の湖岸を歩く

第29回只見町民ハイキング開催！

5月27日、新緑の只見湖岸を歩く「只見町民ハイキング」が開催され、約110名が参加しました。青少年旅行村いこいの森をスタートし、2.8kmと4.7kmのコースで行われたハイキングでは、ベビーカーを押しながら親子で楽しむ姿や景色を満喫しながら歩く姿などが見られました。また、フィリピンから町内企業へ研修にきている方々の姿も見られ、地域住民と一緒にイベントを堪能していました。



▲地域のイベントを楽しんだ地元の方と海外研修生の皆さん



◀只見町民ハイキングを楽しんだ参加者の皆さん

町長スケジュール

(5月分)

- | | |
|--|--|
| 8日 ユネスコエコパーク連絡調整会議、只見特産・JAとの「懇談会」 | JR只見線利用促進実行委員会、町政懇談会(明和) |
| 9日 定例庁議、南会津方部水災害対策協議会 | 19日 只見小学校運動会 |
| 10日 南会津地方町村会総会、会津高原ふるさと推進協議会理事会、南会津地方土地開発公社理事会、南会津地方林業協会総会、南会津地方緑化推進委員会、南会津地方広域市町村圏組合管理者会、南会津地方町村連絡会議懇談会(南会津町) | 22日 全国森林環境税創設促進連盟定期総会(東京都) |
| 11日 只見町商工会通常総代会 | 23日 ダム・発電関係市町村全国協議会理事会・定例総会 |
| 13日 南会津郡三町一村消防団春季連合検閲式 | 24日 只見町鳥獣被害対策協議会総会
南会津建設事務所河川課来庁、6月補正予算町長査定 |
| 14日 政策調整会議、只見線活性化対策協議会総会、町政懇談会(朝日) | 25日 只見・金山・昭和县道改修促進期成同盟会総会(金山町) |
| 15日 (株)季の郷 湯ら里取締役会、町政懇談会(只見) | 28日 (株)季の郷 湯ら里定時株主総会、(株)会津ただみ振興公社定時株主総会、奥会津五町村活性化協議会決算監査 |
| 16日 只見町青少年健全育成町民会議総会、消防ポンプ操法大会選手結団式 | 29日 福島県水源林造林推進協議会役員会(福島市) |
| 17日 福島県水道協会定期総会 | 30日 南会津地方広域市町村圏組合議会臨時会(南会津町) |
| 18日 滝調整池堆砂対策連絡協議会、 | 只見高等学校振興対策会議役員会 |
| | 31日 只見町民生児童委員との懇談会 |

町民の消息

(4月26日～5月25日届出分) 敬称略

■お誕生おめでとうございます

吉津 亘晴 (男/ 紘二・佑美) 福井

■おくやみ申し上げます

横山 静枝	86歳	長浜
佐藤 京	89歳	長浜
本名 吟	92歳	黒谷
菅家 哲治	62歳	黒谷
五十嵐 イソ	89歳	只見
鈴木 満子	82歳	只見

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

平成30年5月1日現在

人口	4, 264 (+28)
男	2, 094 (+22)
女	2, 170 (+6)
世帯数	1, 863 (+33)
高齢化率	45.50%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 45 転出 13 出生 1 死亡 5

あとながき

▽役場庁舎暫定移転により、役場機能が町下庁舎と駅前庁舎の2ヶ所になりました。私が所属する地域創生課も町下庁舎に移り、引越し作業も何とか一段落しました。移転した当初は、出勤の際に間違っって駅前庁舎に向かってしまったこともありましたが、移転から約1ヶ月が経過し、徐々に慣れてきました。

▽来庁者の中には、駅前庁舎の入り口が分からず町下庁舎に来られるケースもあるようです。窓口業務がある駅前庁舎の玄関は、只見駅側となります。また、旧役場庁舎は現在使われておりませんので、ご注意ください。

(三瓶)

生涯学習サポーター
三瓶美由紀

朝日振興センター
図書室 ☎84-2111

おすすめ新着図書

★答えのない道徳の問題 どう解く?



やまざきひろし/文
きむららゆう/絵
にさわだいらはるひと/絵
(ポプラ社)

「どうして勉強をしなきゃいけないの?」「ついていい嘘とついていけない嘘は、どう違うの?」「どうして正義のヒーローは、悪者を殴っているの?」大人でも答えを出すのが難しい問題たち。考えて、考えて、考え抜いた答えを、家族や友だちと話し合う。その姿勢が、子どもたちにとって、学びにつながると思うのです。ぜひ、親子で読んで、一緒に考えてみてはいかがでしょうか?

★かがみの孤城



辻村深月/著 (ポプラ社)

不登校の少女が鏡の向こうの世界で出会ったのは——生きづらさを感じているすべての人に贈る物語。一気に読み必至の著者最高傑作。

学校での居場所をなくし、閉じこもっていたところの目の前で、ある日突然部屋の鏡が光り始めた。輝く鏡をくぐり抜けた先にあったのは、城のような不思議な建物。そこにはちょうどこころと似た境遇の7人が集められていた——

なぜこの7人が、なぜこの場所に。すべてが明らかになるとき、驚きとともに大きな感動に包まれる。生きづらさを感じているすべての人に贈る物語。一気に読み必至の著者最高傑作です!

★朝日振興センターではリクエストを随時受付しています。読んでみたい本があれば ぜひ、リクエストしてください。

1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう

1、互いに助け合い親切をつくり楽しい町をつくりましょう

1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう

1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう

1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

町民憲章

トリモチの木ーヤマグルマ (学名: *Trochodendron aralioides*)

[ヤマグルマ科 ヤマグルマ属]



▲ヤマグルマの花期は5月～6月



▲上向きに車輪のように葉がつく

只見町で「トリモチ」「モチノキ」と呼んでいるのは、一般的にはヤマグルマと呼ばれる樹木です。これらの地方名は、ハエや小鳥の捕獲に用いた粘着物質“トリモチ”をこの樹木から採取したことに由来します(現在、トリモチでの鳥類の捕獲は禁止されています)。トリモチの材料となる樹皮の採取は、5月末から夏土用が最適と言われています。ヤマグルマを伐採して、枝を払い、樹皮を剥ぎます。剥いだ樹皮はモチイド(モチノキの樹皮を漬ける池)に半月間ほど漬けて表皮を腐らせた後(秋まで漬けるという説も有)、残った内樹皮を臼と杵でつき、出てきたノリ状の物質を水で揉んでゴミを取り除き、トリモチを作りました。黒谷入や入叶津などにあるモチイドという地名は、かつて小屋掛けをしてトリモチ採りをした場所だといいます。江戸時代から大正初期にかけては、新潟からトリモチの仲買人がきて、樽で運搬されたそうです。

ヤマグルマは、日本では山形県南部以南から九州まで広く分布する常緑高木です。山地の尾根部を中心に分布し、急な斜面の岸壁に生えることもあります。基本的には低木状ですが、大きいものでは高さ20mにもなります。只見町では、会津朝日岳登山道叶ノ高手付近にはまとまった林を見ることができ、要害山の登山道沿いなどやせ尾根にも見られます。

企画展

「守りたい！只見の野生動植物

ー只見町の野生動植物を保護する条例ー

期 間:6月25日(月)まで

場 所:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

企画展アーカイブ「只見の手工芸」

期 間:6月27日(水)～7月23日(月)まで

場 所:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

研修会

◆町公認ガイド・野生動植物保護監視員フォローアップ研修

「雪ふる里山を舞台とした環境教育の実践

～自然体験を通して『伝えたい』こと、『伝わる』こと」

講 師:小林 誠 氏

(十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ 学芸員)

日 時:6月16日(土)13:30～15:30

会 場:ただみ・ブナと川のミュージアム

※一般の方もご参加いただけます(入館料300円がかかります)

詳しくは、
只見町プナセンター
までお問い合わせ
ください